

4 ^{きょうど} 郷土を開く

わたしたちの住んでいる大信村は、多くの人々によって開かれてきました。いつごろ、どのようにして開たくされ、また、どんな苦労があたのでしょうか。

(1) ^{なめり} 滑里川地区の開たく

^{かんせい}寛政4年(1627年)、^{はんしゅ}白河藩主だった^{にわながしげ}丹羽長重は、^{ばくふ}徳川幕府の^{めいれい}命令によって、^{しろ}お城の^{しゅうり}大修理をすすめることになりました。

この工事には、^{りょうない}領内の村々から毎日、2,000人をこえる人夫が集められ、3年間もかかって完成したとつたえられています。

このころ、大信村下小屋地区の人たちは、お城の工事の人夫に出るかわりに、滑里川あれ地を切り開き、田畑を作るようにとの命令が、出されました。

それで、下小屋地区の一部の人たちは、やく10ヘクタール(^{ちやうぶ}10町歩)以上の田畑を開たくし、そこにうつり住むようになりました。

このようにして、滑里川地区ができたのです。(白河^{ふどき}風土記より)



滑里川地区の田畑のようす